

審査の結果の要旨

氏名 石川 千春

自閉スペクトラム症 (ASD) においては社会的相互作用の障害のために自己理解や他者関係にも困難があるとされる。従来の支援では定型発達の様式に合わせた訓練が多く、般化の問題が指摘され、ASD 者の内的世界に寄り添う方策が重要である。本論文では内的世界を可視化する描画表現に着目し、ASD 者の自己理解と他者関係への影響を明らかにすることを目的とした。本論文は、先行研究の整理から研究設問を提示する第 I 部、描画表現を行う ASD 者の主観的体験を明らかにする第 II 部、描画表現を行っていない ASD 者を対象に描画法と語りから自己について探索する第 III 部、描画コミュニティにおける他者関係と自己理解への影響について実践的研究を行う第 IV 部、総合考察を行う第 V 部で構成される。

第 I 部では、自己表現としての描画表現の特長を概観し、ASD の自己理解や他者関係の困難に対して描画表現がもたらす効果の可能性と不明点を指摘し、研究課題を提示した。

第 II 部では、第 4 章 (研究 1) として描画表現を行う 11 名に面接調査を行い、描画表現を介した他者交流や他者参照が自己理解に至るプロセスにおいて重要である点を示した。第 5 章 (研究 2) では長年描画表現を行う 1 名の事例研究を行い、【自己を生かす】という自己の構造が見出され、描画表現を通じた社会的なつながりの意義が提示された。第 III 部では、第 6 章 (研究 3) として 9 名に自分描画法と PAC 分析という語りを促進する手法を用いて収集されたデータを KJ 法により分析し、質問紙調査も行った。その結果、描画表現をもとに他者 (筆者) と共に自己を探索することを通して自己の肯定的な要素を発見することや精神的健康度の改善が示唆された。第 7 章 (研究 4) では研究 3 で自己理解言及が描画後に増加した事例と減少した事例について比較検討を行い、感情面の気づきが自己理解のバリエーション増加につながることや、他者との相互作用によって自己を統合的に解釈することが示唆された。第 8 章 (研究 5) では描画法とそれをもとにした語りの調査を繰り返す一事例研究により、感情理解の促進を発端として内的な自己理解促進が示された。第 IV 部では、第 9 章 (研究 6) として ICT を活用した描画コミュニティを設定し、描画アプリで描いた描画表現を SNS に公表・相互鑑賞・意見交流を行う調査を 11 名に対し 3 カ月間実践した。その結果、共感的な相互作用が示された。第 10 章 (研究 7) では同一の 11 名に対しフォーカスグループを実施し、SCAT によって語りを分析した。その結果、他者参照や他者比較によって多様性や個別性を認識し、新たな観点が生まれて自己への気づきを得ることや自己肯定感の向上が示唆された。これらの知見を統合した総合考察では、描画表現を通して ASD 者に生じる自己理解・他者関係についての仮説モデルを提示した。

本研究は、描画表現によって ASD 者に生じる自己理解と他者参照のプロセスを、質的手法を中心とした多角的な方法を用いて明らかにしている。実証的に得られた知見を発展させ、実践研究まで展開しており、学術的意義・実践的意義が高い研究である。よって本論文は博士 (教育学) の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。